

# 北九州地区小児科医会会報

## 講演会・カンファランスの等のご案内

### 北九州地区小児科医会例会のご案内

#### 第578回北九州地区小児科医会例会（WEB開催）

日時：2022年10月20日（木）18:50～20:30

一般講演：小児の舌下免疫療法～よくわかる基礎から臨床まで

演者：小倉きふね病院 アレルギー科 岡部 貴裕 先生

特別講演：小児アトピー性皮膚炎の最前線

～新たな治療選択肢を生かして～

演者：神奈川県立こども医療センター

皮膚科 部長 馬場 直子 先生

登録は下記のリンクもしくはQRコードからお願いします。

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_Le7RStGDSG2JVZTzhYH6SA](https://zoom.us/webinar/register/WN_Le7RStGDSG2JVZTzhYH6SA)



#### 第579回北九州地区小児科医会例会（WEB開催）

日時：2022年11月1日（火）18:50～20:30

講演：経口補水療法をもう一度復習しよう

一実はコロナ禍でも活躍していたその実力

演者：聖マリア病院 臨床・研究本部 本部長 轟 知光 先生

登録は下記のリンクもしくはQRコードからお願いします。

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_ivXsbqjaSz6edJoqbr8lQ](https://zoom.us/webinar/register/WN_ivXsbqjaSz6edJoqbr8lQ)



### その他講演会などのご案内

#### 第449回小倉小児科医会臨床懇話会（WEB開催）

日時：2022年10月27日（木）19:00～

演題1：アレルギー疾患をもつ子どもたちのために専門的な医療を提供する～小児アレルギーセンター設立にむけて～

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 河原 隆浩 先生

演題2：医療的ケア児サポートセンターの取り組み

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 酒見 好弘 先生

### 産業医科大学セミナー等のご案内

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。Webでの参加をご希望の先生は、[j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp](mailto:j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp)までご連絡願います。後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

#### 産業医科大学小児科セミナー

日時：2022年10月27日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：神経線維腫症 up-to-date

演者：福田 智文 先生、五十嵐 亮太 先生、重田 英臣 先生

※10月のクリニカルカンファレンスはお休みです。

#### 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2022年11月14日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：成長曲線から読み解く内分泌疾患

演者：桑村 真美 先生、齋藤 玲子 先生

#### 産業医科大学小児科セミナー：大学院生報告

日時：2022年11月24日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題1：Environmental factors affecting change of upper respiratory tract microbiota in young children

演者：Asmaa Abushawish 先生

演題2：産業医義務年限期間における小児科医としてのキャリア形成

演者：菅 秀太郎 先生

#### 遠賀中間内科医会 遠賀中間小児科医会合同例会（WEB開催/共催）

日時：2022年10月19日（水）18:50～20:30

一般演題：新型コロナウイルス感染症の現状

演者：遠賀中間医師会おんが病院 小児科部長 北島直子先生

特別講演：COVID-19の病態・診断・感染対策

演者：愛知医科大学大学院医学研究科

臨床感染症学 主任教授 三嶋 廣繁 先生

参加登録：リンクもしくはQRコードから

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_BP-fbGYPQKyAwR53Zq7JJg](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_BP-fbGYPQKyAwR53Zq7JJg)



## 外来感染対策向上加算について

今回の診療報酬改定で新設された加算です。これまで病院を対象として感染防止対策加算が設けられていましたが、名称が感染対策向上加算と変更され、診療所においては外来感染対策向上加算として新設されました。新型コロナウイルス感染症で地域の診療所での診療がなかなか進まなかったことから、今回の加算では新興感染症が流行した際には発熱患者の診療を行うことを自治体のホームページに公開することが前提とされています。算定要件は病院に求められる内容に準じており、点数の割にはハードルが高い内容になっています。加算は、①「感染対策向上加算」6点（初診あるいは再診において月1回）が基本で、要件を満たせば②「連携強化加算」3点と③「サーベイランス強化加算」1点がさらに加算され、月に最大10点となります。

①では、院内に感染防止対策部門を設置して専任の院内感染管理者（医師、看護師、薬剤師など）を配置する必要があります。管理者は医療機関管理者（院長）と兼務できます。最新のエビデンスに基づき標準予防策、感染経路別予防策、職業感染予防策、疾患別感染対策、洗浄・消毒・滅菌、抗菌剤適正使用等の内容を盛り込んだ自院の状況に合わせた詳細な対策マニュアルを作成し各部署に配布することが求められています。年に2回は院内感染対策に対する院内研修を行い、週1回院内を巡回して感染防止対策の実施状況を把握し指導することになっています。また年2回以上感染対策向上加算1の届け出医療機関か地域医師会が主催する院内感染対策に関するカンファレンスに参加し、年1回は新興感染症発生時を想定した訓練に参加します。抗菌薬の適正使用についても連携医療機関の助言を受け、「抗微生物薬適正使用の手引き」を参考にして抗菌薬の適正な使用を行い、細菌学的検査を外委託する場合は、「中小病院における薬剤耐性菌アウトブレイクガイダンス」に沿って対応することも求められています。以上の院内感染防止対策に関する取り組み事項を院内の見やすい場所に掲示しておく必要があります。また、有事のとき（新興感染症の発生時）には、発熱患者の動線を分けることができる体制を有し、連携体制についても連携医療機関とあらかじめ協議しておくことが求められています。

②では、感染対策向上加算1を算定している連携医療機関に対して過去1年間に4回以上感染症の発生状況、抗菌薬の使用状況について報告することとなっています。同加算については令和5年3月31日までは当該基準を満たしているものと見なされます。

③では、「院内感染対策サーベイランス」（JANIS）または「感染対策連携共通プラットフォーム」（J-SIPHE）に参加する必要があります。これらと同等の地域や全国のサーベイランスへの参加でも可とされていますが、現時点ではこの2つのいずれかへの参加のみが要件を満たします。現在行われている季節性インフルザの動向把握のための定点医療機関への参加や診療検査医療機関であることでは要件を満たしません。新たに参加する場合、令和5年3月31日までは参加申込書を窓口へ提出した時点から当該要件を満たすものとみなされます。

繰り返しになりますが、「外来感染対策向上加算(6点)」のみ届出の場合、連携先は各郡市医師会で差し支えありませんが年2回以上のカンファレンスへの参加は必要です。さらに「連携強化加算(3点)」を届出する場合は、感染対策向上加算1届出医療機関との連携が必須です。

届け出書類のひな型は福岡市では市医師会の会員用HPの「診療報酬改定情報」に掲載されていますので参考にして下さい。後日施設要件を満たさず返還となるとすべてのレセプトが対象となりますので、要件の十分なお確認をお願いいたします。

なお、次回（令和6年）の改定に向け、日本小児科医会社会保委員会には複数の県から本項目についての増点や算定要件の緩和について要望が寄せられています。

（福岡県小児科審査委員連絡会）

## 協議事項・報告事項

1) 例年通り、北九州地区小児科医会会費の徴収を行わせていただいております。会員の異動等含めございましたら、ご連絡ください。

2) 今後の北九州での生後半年から5歳のコロナウイルスワクチン接種に関する対応に関して現状を交えて話題に上がりました。個別接種が主になりそうなこと、アンケートでは、ワクチン接種を行う施設がこれまでの5-11歳よりも減っているようです。

また、インフルエンザワクチンとの同時接種や、どの月齢のタイミングでの接種を勧めるかなど、今後の国や小児科学会等も含めた見解もまだはっきりしていないところもあり、経過を見守っていく必要がありそうです。

3) 乳幼児健診登録医療機関研修会でも出ていた母子モ（乳幼児健診票の電子化）に関して：  
・集計が容易になるなど、IT化に関しては、世の流れでしょうが、現状の紙使用では対応が遅れてしまうとの発言に関しては非常に遺憾である。早い対応が必要な場合には、予め電話連絡するなど行われているはずである。  
・実証実験等もしっかりできているのかよくわからない  
・もう少しじっくりと調整したほうが良いのではないか  
・電子カルテシステムとの連携など不明な点が多い

といった意見も出ました。今後、調整を進めていく予定です。

4) 今月の新型コロナウイルス感染症への対応について特にありません

<その他の今後のセミナー>

○第18回日本小児科医会生涯研修セミナーin 宮崎（2022年10月9日（日）宮崎観光ホテル

○第54回日本小児感染症学会・学術集会（2022年11月5日6日アクロス福岡 会頭：楠原教授）

○第28回日本子ども虐待防止学会（2022年12月10日（土）11日（日）福岡国際会議場会頭 小川厚先生

## 委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継  
2022年

11月1日（火）

大塚製薬株式会社

講演名；経口補水療法をもう一度復習しよう

一実はコロナ禍でも活躍していたその実力一

講師：聖マリア病院 臨床・研究本部 本部長 靄知光先生

12月

株式会社ツムラ 小児における漢方療法（案）

佐賀の栗山先生

1月 総会

2月 エーザイ株式会社 一般外来でのてんかんの話

3月 メラトベル関連

その他、COVID-19のため、委員会は行われておりません。